

エダラボン使用下において尿酸値が脳梗塞転帰に与える影響

1. 研究の対象

2012年8月から2017年6月までに当院に脳梗塞の診断で入院治療を受けた方。そのうち脳梗塞発症前に日常生活動作が完全自立しており、発症から24時間以内に入院された方が対象です。発症から24時間以降に入院された方や、脳梗塞発症3ヶ月後の日常生活動作の状況が不明であった方は調査対象外です。

2. 研究目的・方法

尿酸は動脈硬化のリスクと深く関係しており、尿酸高値は心筋梗塞や脳梗塞のリスクであるとされてきました。一方で尿酸は抗酸化作用を有しており、脳梗塞急性期に発生して脳梗塞を悪化させる活性酸素を除去する可能性があります。実際、脳梗塞急性期の尿酸高値は脳卒中転帰良好と関係があるとも報告されています。本邦においては、活性酸素を除去する効果を持つエダラボンという治療薬が脳梗塞急性期治療として日常診療に用いられています。このエダラボンを用いた場合、尿酸の抗酸化作用がエダラボンによって打ち消されてしまうのか、さらなる上乘せ効果が期待できるのかは不明です。そこで尿酸値と脳梗塞転帰の関係を、エダラボンの使用の有無にわけて調査します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、神経学的異常所見、血液検査（ヘモグロビン、血糖、ヘモグロビンA1c、コレステロール等）、3ヶ月後転帰（mRS）など。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
熊本市南区近見5-3-1 電話番号 096-351-8000
担当者 神経内科 永沼 雅基（研究責任者）

以上